

< 学術論文 >

祖父母による子育てサポートに関する保護者の意識

— 中国・日本における国際比較調査 —

松 井 尚 子 Naoko MATSUI
(東亜大学 人間科学部 心理臨床・子ども学科 保育・幼児教育コース)
宮 地 あゆみ Ayumi MIYADI (九州大谷短期大学 幼児教育学科)
井 手 裕 子 Yuko IDE (精華女子短期大学 幼児保育学科)

matsui@toua-u.ac.jp 083(256)1111

《要 旨》

子育てには「文化」があることを一つの仮説とし、中国（上海市）と日本（北九州市）の乳幼児を持つ保護者（上海市912名・北九州市993名）を対象に、2019年9月～12月の期間に、質問紙調査を実施した。本研究の目的は、子育てに関わる環境（家族・親戚関係及び物的環境）の結果から、日中比較を通して、祖父母のサポートの実際、それに対する保護者の意識・行動の特徴を考察することにある。

中国と日本の祖父母の子育てへのサポートについて、大きく二つのことが特徴としてあげられる。一つには、中国では子育てを「家族の仕事」ととらえ、祖父母は日常の世話においてもまた経済的にも子育てをサポートしていると思われることである。二つには、中国の保護者たちは祖父母に多くのサポートを受けてはいるが、意見の相違も多いとみられることである。日本の保護者たちは祖父母と意見が異なった場合祖父母に合わせることが多いが、中国では子育ての主導権は保護者が握っていることが推察された。

キーワード：子育て意識、祖父母、保護者、サポート、国際比較調査

1. はじめに

子どもへの「教育」は、まず、その子どもの保護者あるいは養育者による「子育て」から始まる。その「子育て」の中で、日本人の保護者から育てられた子どもは自然と日本特有の意識や態度、行動様式を身に付ける。同様に、他国においても、その国の保護者に育てられた子どもは、その国の文化を背景としたその国特有の意識や態度、行動様式を身に付ける。この意味で、国による文化の違いが「子育て」に与える影響は計り知れない。

この度、この「子育て」の違いを検証することを意図して、同じアジア圏に位置し、歴史的にも影響を及ぼし合った中国と日本の乳幼児（0歳から小学校就学前までの子ども）をもつ保護者（子どもの親を示す）の「子育て」に関する意識や態度の違いに着目し、上海市と北九州市において国際比較調査を行なった^(註1)。第1報として植村ら（2021）は、特に、①子育て意識と態度、②子育てに関わる環境（家族・親戚関係及び物的環境）の調査結果から、日中の比較を中心にその特徴を分析し、考察した。その結果、日本では、「子育て」は母親の仕事であると認識されている傾向

が見られ、それに対し中国では、家族全体の仕事と捉えられていることにより、父親、さらに祖父母の育児への参加に大きな差が見られることが明らかになった。また、日中ともに保護者が園の保育者とのコミュニケーションをあまりとっていない場合、子育てへの不安を感じる割合が高い傾向にあることも明らかとなった。このことは、身近な子育て支援の在り方を考える上で大きな示唆を与えるものと考えられる。

以上のことから本論では、前述の②子育てに関わる環境、特に「祖父母の関与」に焦点をあてて、日本と中国との違いを検証し、望ましい子育て支援の在り方についてさらに考察を深めていくことにする。

2. 本研究の目的

日中の「子育て」の違いを考えると、忘れてはならないことは、文化の違いである。秦ら(2020)によると、中国には「子育ては母親の仕事である」とする文化がほとんどないと言われている。中国、特に上海市では、母親が職業に就いていることは当たり前であり、夫婦共働きが一般的な姿である。そして、その夫婦共働きの家庭の「子育て」に大きく関与している存在が「祖父母」なのである。

一方、日本でも平成9年(1997年)以降、共働き世帯が専業主婦の世帯を上回り始め、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対する割合も増加し、女性は平成14年(2002年)に「反対」する意識が「賛成」を上回ったことが報告されている。また、平成28年(2016年)には、男性においてもその考え方に「反対」する割合が「賛成」を上回った^(註2)。それに伴い、日本でも祖父母が子育てをサポートする「孫育て」「孫育」という言葉が使われ始め、自治体によっては「孫育て」「孫育」に関するパンフレットを作成し、区役所等で配布したり、妊娠した女性が母子手帳を交付される際に合わせて配布したりするようになった。また、祖父母が孫の育児のために休暇をとることができる「孫休暇」を導入する自治体や企業もある^(註3)。

このように現在、中国においても日本においても、「祖父母」が「子育て」をサポートしている現状がある。そのため「祖父母」のサポートが、「子育て」に大きく影響しているとも考えられる。また、中国と日本では、「祖父母」は具体的にどのような支援や援助をしているのか、祖父母がサポートすることにより「子育て」にどのような「効果」が現れるのか、などの疑問も浮上する。

そこで、本研究は両国で行った質問紙調査の対象者が子どもを持つ保護者であることに着目し、子育て中の保護者たちの祖父母の存在やサポートについての意識に関する調査項目を抜粋し、その現状を垣間見られればと考えている。また、管見の限り、祖父母の子育て援助に関する保護者の意識調査は様々行われているが、子育て中の保護者が持つ祖父母のサポートについての思いを中国と日本で比較調査を行った研究は見当たらない。そのため、本研究では「子育て」における「祖父母」の支援・援助の実際、それに対する保護者の意識・行動等を明らかにし、望ましい子育て支援の在り方について考察していく。

3. 研究方法

(1) 調査対象者及び方法

調査対象者は、上海市と北九州市の乳幼児(0歳から小学校就学前までの子ども)の子どもを持ち、保育施設に通園させている保護者とした。調査期間は2019年9月～12月に、園からの配布にて質問紙調査を実施した。

上海市では、4つの公立幼稚園に依頼した。有効サンプル数は912(父親265, 母親644, 未記入

3) である。北九州市では、保育所、認定こども園、幼稚園19園（事業団立保育所16園、私立幼稚園・こども園・保育所各1園）に依頼した。有効サンプル数993（父親58、母親933、未記入2）である。上海市における質問紙回収率は95.5%、北九州市における質問紙回収率は83.0%であった。

なお、質問紙調査は、中国の研究者が作成したものを、日本での調査においては日本語に翻訳し使用した。

(2) 倫理的配慮

質問紙調査については、協力園の園長に事前に調査目的を説明し、実施の許可を得た。調査は無記名で行い、回答結果は統計処理をするため、個人が特定されることはなく、結果は学術的な目的以外に使用しないことを調査協力依頼書に記載した。その上で、質問紙の返却をもって調査に了承して頂いたものとみなした。

(3) 調査項目

柏・佐藤（2018）は、①育児感情、②親子関係、③夫婦関係の3つの要因で子どもの育ちを精査している。植村ら（2021）は、この結果を参考にし、①子育て意識・態度、②子育てに関わる環境、③子育て文化（内容・方法）④将来の教育に関する考え方の4種類のカテゴリーを設定した。今回着目する質問項目は、②子育てに関わる環境で、特に「祖父母」子育てへのサポートの実際、それについての保護者の意識に関する項目である。

4. 結果と考察

(1) 乳幼児期の保護者の子育ての状況

1) 子育ての現状

はじめに、直接子育てに関わっている人の現状について、「いま、お子さんの育児に何人が関わっていますか」という項目に対して、「父が子育てに関わっている」と回答した人は、中国が81.9%、日本が83.9%とほぼ同じであった。しかし、「母が関わっている」では、中国が87.8%で日本は97.2%である。日本は父親と母親とを比較すると母親の方が13.3%も高かった。また、中国の母親よりも日本の母親の方が約10%も高かった（表1）。このことについて、「父親が子育てにかかわっている」と回答した人数としなかった人数、「母親が子育てにかかわっている」と回答した人数としなかった人数について χ^2 乗検定を用いて検討したところ、父親については日中でそれぞれ回答した人数の違いに有意な関連は見られなかった。しかし、母親については有意な関連が見られた（母親が育児にかかわっていると答えた人数と答えなかった人数： $\chi^2(1) = 60.083 p < .01$ ）。残差分析の結果、日本では母親が子育てに関わっていると答えた人数が中国と比べ有意に多く、関わっていないと答えた人数が有意に少ないことが明らかになった。

そのうえで、中国においては、「父方の祖母が関わっている」が50.2%、「母方の祖母が関わっている」が48.8%で、99.0%の家庭で祖母が関わっている。日本の祖母の関わりは58.7%からすると、中国の方が40.3%も高い。しかも、中国においては「父方の祖父が関わっている」が32.1%、「母方の祖父が関わっている」が27.6%の合計59.7%と、日本の祖父の関わりは38.4%と比較すると21.3%も高かった。

また、「子どもの数」では、中国では「一人」が67.1%で「複数人」が32.8%、日本は「一人」が30.5%で「複数人」が69.4%であった（表2）。

中国では両親ともに同じ程度子育てに関わっており、積極的に祖父母が子育てに関わっている結果が見て取れる。その一方で、日本においては父親の関わりは中国とほとんど同じであるが、子どもの数は中国の「一人」とは逆に「複数人」と回答した保護者の方が多く、祖父母の関わりは中国

と比較すると低い。また、日本においては子育てに母親が関わっている割合が中国の保護者や日本の父親と比較して高いことから、日本の母親の子育てにおける負担は大きいと推測できる。

表1 「いま、お子さんの育児に何人が関わっていますか」^(註5)

	父が関わっている	母が関わっている	祖父が関わっている			祖母が関わっている			その他の人が関わっている
			父方の祖父が関わっている	母方の祖父が関わっている	合計	父方の祖母が関わっている	母方の祖母が関わっている	合計	
中国	81.9%	87.8%	32.1%	27.6%	59.7%	50.2%	48.8%	99.0%	2.3%
日本	83.9%	97.2%	38.4%			58.7%			16.6%

注) 複数回答のため合計が100%にならない。

表2 子どもの数

	一人	複数人	D.K.,N.A	合計(人)
中国	67.1%	32.8%	0.1%	100.0% (912)
日本	30.5%	69.4%	0.1%	100.0% (993)

2) 子育ての悩みを相談する相手

子育て中の保護者は、子育てに関する悩み・困りごとを誰に相談しているのかについて、相談度の高い順に1番から3番まで回答を求めた。

保護者が1番に子育ての相談をしている相手は、両国共に1位が「配偶者」であり、その割合は中国が72.3%で、日本は中国よりも26.6%低い45.7%であった。2位は、日本では24.6%で「自分の親」(保護者の親を示す)であったが、中国は「ママ友」で9.9%となっており、2番以降が極端に低くなっている(図1)。

次に、保護者が2番目に相談している相手は、両国共に1位が「自分の親」で、中国が26.4%で日本では26.2%であった。しかし、3番目に相談している相手は、中国では「親しい友人」の23.6%が1番多いが、日本では「ママ友」「園の先生」「自分の親」がほとんど同じ約15%となっている(図2, 図3)。

張と星(2016)は、中国で1953年以来に実施されてきた6回の国勢調査の結果をもとに「『核家族』の割合は1982年の68.30%から2000年の68.18%へと20年間近くほとんど変化がなく、2000年から2010年の60.89%の下降幅が比較的大きい。その背景には『単身世帯』(引用のまま記載)の増加があり、その割合は2000年の8.57%から2010年の13.67%へと上昇した」と述べている。また、日本においても年は異なるが、2020年の国勢調査では、「核家族」が54.2%、「単身世帯」(国勢調査のまま記載)が38.1%で、合計92.3%を占めている。両国共に50%以上の世帯が核家族である。

このような背景を考慮しても、両国共に子育て中の保護者の相談相手は「配偶者」であり、自分の親と同居していなくても^(註4)「自分の親」は「配偶者」に次いで子育て中の保護者からすると頼りやすい存在になっていることが見て取れる。

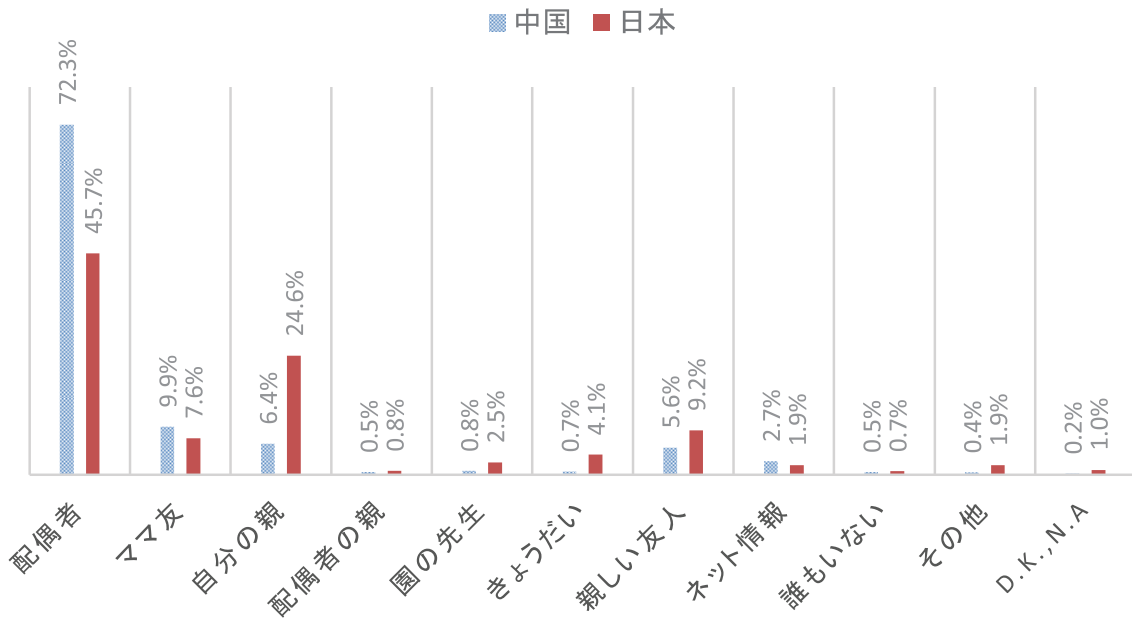


図1 「悩んだり困ったりしたときの1番目の相談相手」

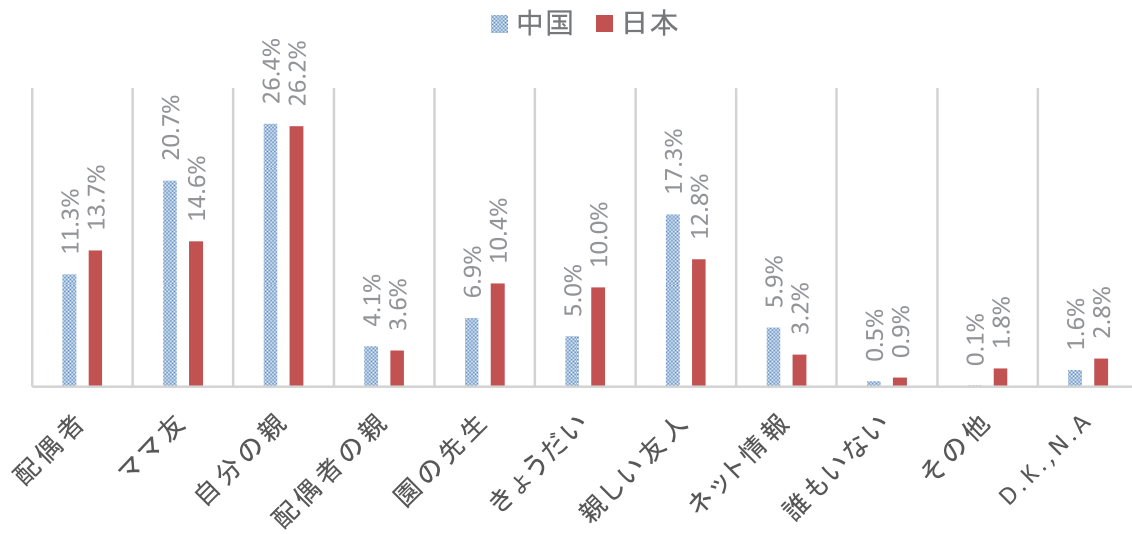


図2 「悩んだり困ったりしたときの2番目の相談相手」

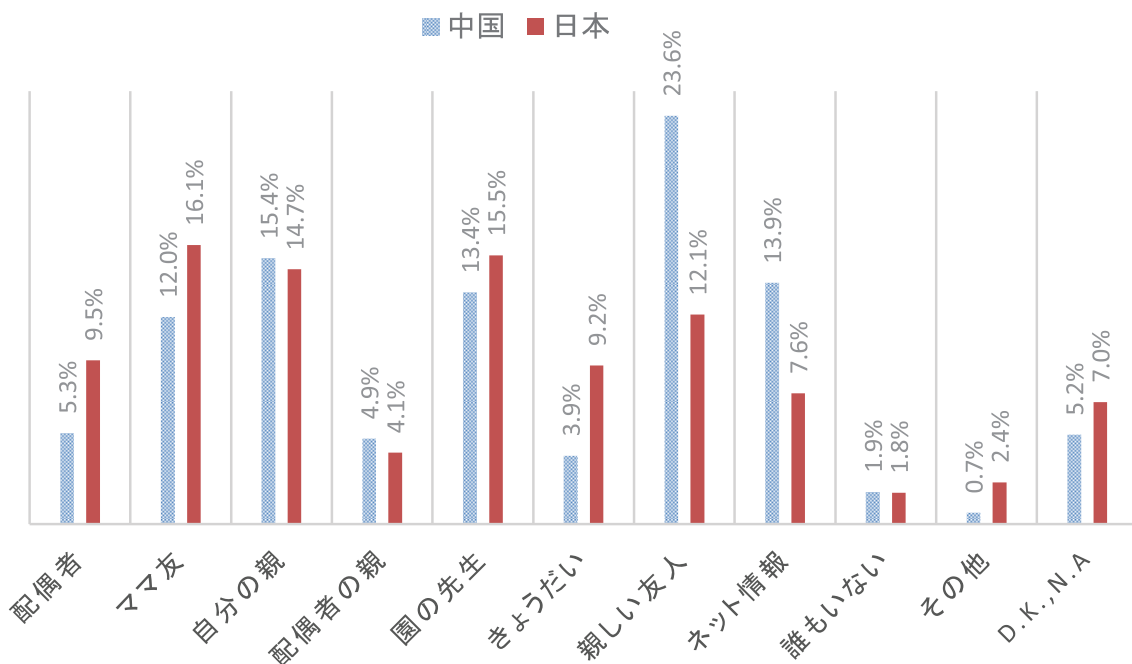


図3 「悩んだり困ったりしたときの3番目の相談相手」

(2) 祖父母による子育ての比較

1) 祖父母の子育て参加率の日中比較

続いて、祖父母の子育て参加率について見てみる。祖父母による子育ての関わり方を比較した結果、関わる人とその参加率に違いが見られた(図4)。中国では父方の祖父・祖母の参加率が高く、日本では母方の祖母の参加率が高い、という結果であった。

中国は父方の祖父母、日本は母方の祖父母の参加率が高いのは、文化的な違いからくるものと考えられる。また、彭(2022)によると、「中国では定年退職年齢が男性60歳、女性55歳が一般的」であることから、祖父母が育児に参加する時間が確保しやすいことも考えられる。

今回は参加率に着目したが、日中で子育て参加の内容が異なっている可能性があることから、今後は子育て参加の内容別での祖父母の参加率やその頻度などの調査が必要となるであろう。

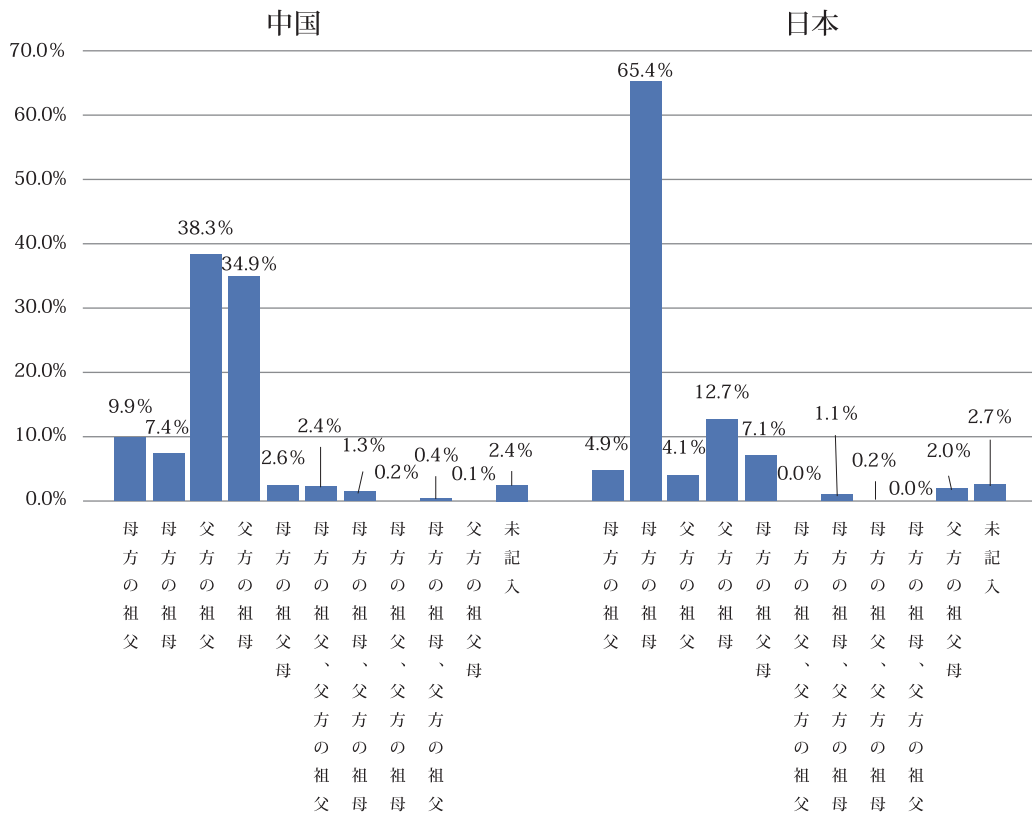


図4 「祖父母のうちで育児に一番関わっているのはだれか」

2) 祖父母からの経済的援助の日中比較

祖父母からの孫に対する日常の世話の援助を受けている割合は、中国の方が高かった。では、経済的な援助面ではどうだろうか。そこで、祖父母からの経済的な援助について比較検討した（表3）。

祖父母からの経済的援助を受けている割合について、中国は「ややもらっている」の割合が最も多く、41.7%であった。日本は「まったくもらっていない」の割合が最も多く、52.3%であった。中国の方が、日常的な世話においても経済的にも援助を受けている割合が高いことが分かった。

日本では、経済的援助を「まったくもらっていない」と答えた人の割合が中国の約2.7倍となった。何故、日本の方が子どもの人数が多いにも関わらず、経済的な援助を受けている割合が中国より低いのだろうか（表4）。この理由の一つとして考えられるのが、中国における教育費の負担の大きさである。北京大学中国教育財政科学研究所（2018）が2017年に行った中国教育財政家族調査によると、学校外での教育支出が家庭教育支出の1/3に達することが指摘されている。非義務教育段階では、収入別での家庭教育支出の負担格差が拡大している事も示されており、中国で教育費が大きな負担になっていることを示唆している。

郭（2014）は、社会保障制度が整っていないため子どもの医療費の負担が高い等と、教育費だけでなく養育費の負担も大きいことを指摘している。これらの理由から、中国では子育て全般においての負担が大きいため、祖父母からの経済的援助の割合も高いことが推測される。

表3 「祖父母から経済的に援助をもらっていますか」

	とても もらって いる	やや もらって いる	あまり もらって いない	まったく もらって いない	D.K.,N.A	合計（人）
中国	8.8%	41.7%	29.6%	19.2%	0.8%	100.0% (912)
日本	4.7%	15.9%	26.1%	52.3%	1.0%	100.0% (993)

表4 「祖父母から経済的に援助をもらっていますか」の回答と「子どもの数」の関連

			祖父母から経済的に援助をもらっていますか					合計（人）
			とても もらって いる	やや もらって いる	あまり もらって いない	まったく もらって いない	D.K.,N.A	
中国	子どもの 数	一人	9.2%	46.1%	29.2%	14.9%	0.7%	100% (612)
		複数人	8.0%	32.4%	30.4%	28.1%	1.0%	100% (299)
		合計	8.8%	41.6%	29.6%	19.2%	0.8%	100% (911)
日本	子どもの 数	一人	6.3%	19.1%	25.1%	49.2%	0.3%	100% (303)
		複数人	4.1%	14.4%	26.6%	53.7%	1.3%	100% (689)
		合計	4.7%	15.8%	26.1%	52.3%	1.0%	100% (992)

注) 「子どもの数」の未記入者は欠損値として除外した（中国1、日本1）。

3) 祖父母に子育てを手伝ってもらう理由の日中比較

次に、祖父母に子育てを手伝ってもらう理由について比較した。子育てを手伝ってもらう1番の理由について、中国は「出勤時間が厳しい（決められた時間に出勤するのが難しい）」が51.2%、日本は「夫婦二人とも仕事が忙しい」が27.4%と日中での差が見られた（表5）。一人3つ回答した複数回答の集計・比較からもそれぞれの国による違いが現れていた（表6）。両国のどちらにおいても「仕事の忙しさ」や「出勤時間の厳しさ」「祖父母が孫の面倒を見たがる」が理由として多く挙がっている点では共通しているが、それ以外の理由に関して日中での違いが見られた。

中国の特徴として、上位3位以外に「信頼できるベビーシッターが見つからない」という理由が挙げられた。劉（2019）の論考「中国における乳幼児教育・保育改革の過去・現在・未来」によれば、中国では1950年代に父母の労働保障と子どもの発達保障という2つの任務を担うものとして「託児所」（0～3歳）と「幼稚園」（3～6歳）という乳幼児教育・保育システムが設けられている。また、1980年代から始められた一人っ子政策と早期退職女性および農村出身のベビーシッターなどの余剰人口の育児参加によって、乳児の集団保育ニーズが急速に減少し、「託児所」は経営難から閉鎖したり、近隣の幼稚園に吸収・合併されたりし、1990年代後半から、基本的に「幼稚園」が一体化した教育・保育機関として乳幼児に対する早期の教育・保育を担っているとも述べられている。さらに中国の子育ての背景について、北蓄（2018）は、子育てをする夫婦が祖父母などに頼らざるを得ない事情として、子どもを預けることができる幼稚園はあるものの、保護者の幼稚園に対する不信感が根強いことを指摘している。また、夫婦どちらか一人だけの収入で家計を維持できる世帯が少ない、といった事情があることも指摘している。

TMI 総合法律事務所（2022）によると、育児のサポート体制に関しては、日本では「産休」（出産前6週間・出産後8週間、合計98日）と「育児休業」（原則出産後1年、最長2年）という制度

があるのに対し、中国では「産休」(98日(その内出産前に15日間休める))、計画出産に従うことへの奨励として「生育休暇」の上乗せ、「育児休暇」(地方により5～30日、大多数は3歳まで、有給の休暇)がある。すなわち、日本の「育児休業」と比べて「育児休暇」の取得期間が短いこと、適用期間は長い有給の休暇であることが異なる点である。日本と中国で比較すると、「産休」の期間はほとんど同じだが、「育児休業」は日本の方が長い。

これらの理由から、祖父母に頼らざるを得ない状況があり、今回の調査結果にもその意識が反映されているものと思われる。

日本の特徴としては、上位3位以外に「(祖父母に)手伝ってもらっていない」「少しでも楽になりたい」という理由が挙げられた。日本は「(祖父母に)手伝ってもらっていない」と答えた人の割合が中国の約1.6倍である。そして、「少しでも楽になりたい」と答えた人の割合も、中国の約1.6倍となっている。中国では父母共に子育てに関わるのが当たり前で、更に祖父母の手助けも得られるのに対し、日本では父親の育児参加率が中国より低く、母親が子育てのほとんどを担っていることや、祖父母の子育て参加率に関しても中国より低く、母親が育児の負担をより多く感じているのではないかと、ということが理由として考えられる。

表5 「祖父母に手伝ってもらう理由(1番)」

	手伝ってもらっていない	出勤時間が厳しい	夫婦二人とも仕事が忙しい	信頼できるベビーシッターが見つからない	少しでも楽になりたい	自分より祖父母の方が頼りになる	祖父母が孫の面倒を見たがる	周りの人が祖父母に面倒を見てもらっている	その他	D.K., N.A	合計(人)
中国	3.3%	51.2%	29.7%	1.9%	1.0%	2.1%	4.2%	0.0%	1.8%	4.9%	100.0% (912)
日本	8.5%	15.3%	27.4%	2.7%	8.6%	2.0%	9.2%	0.7%	14.5%	11.2%	100.0% (993)
合計	6.0%	32.5%	28.5%	2.3%	4.9%	2.0%	6.8%	0.4%	8.4%	8.2%	100.0% (1905)

表6 「祖父母に手伝ってもらう理由」

	手伝ってもらっていない	出勤時間が厳しい	夫婦二人とも仕事が忙しい	信頼できるベビーシッターが見つからない	少しでも楽になりたい	自分より祖父母の方が頼りになる	祖父母が孫の面倒を見たがる	周りの人が祖父母に面倒を見てもらっている	その他
中国	14.2%	78.2%	78.6%	25.7%	15.3%	17.2%	29.4%	4.3%	4.1%
日本	23.2%	32.5%	41.8%	6.9%	24.6%	11.2%	26.0%	3.6%	21.6%

注) 一人3つ回答した複数回答のため合計が100%にならない。

4) 祖父母の子育てサポートに対する父母の意識の日中比較

祖父母の子育てに関する父母の意識を比較した(表7～9)。今回の調査では、父母ともに中国の方が祖父母と考えが違うケースが多く、意見が対立した場合に自分たちの意思を通す傾向が強いこと、祖父母の育児が子どもの成長にマイナスであると捉える傾向が強いことが示された。意見が対立している傾向は、父母の年齢や子どもの性差、暮らし向きなどによらず一貫している(表10

～12)。このような意見の対立が生じている理由としては、祖父母の子育て参加率が高いためにそれだけ意見の相違が生じるケースが多いことや、中国と日本では子育てに対する意識や価値観が異なること等が考えられる。これらの実態を具体的に明らかにするためには、祖父母の子育て参加に対する感情や意識、要望等により深く着目した調査が必要になると考える。

表7 「子育てのことで祖父母と考え方が違うことがあるか」

	記入者	よくある	時々ある	あまりない	全くない	D.K.,N.A	合計 (人)
中国	父親	16.2%	54.3%	18.5%	6.4%	4.5%	100% (265)
	母親	18.2%	56.1%	17.2%	5.6%	3.0%	100% (644)
中国 合計		17.6%	55.6%	17.6%	5.8%	3.4%	100% (909)
日本	父親	3.4%	29.3%	31.0%	32.8%	3.4%	100% (58)
	母親	9.1%	38.5%	31.5%	17.1%	3.8%	100% (933)
日本 合計		8.8%	37.9%	31.5%	18.1%	3.7%	100% (991)

注)「記入者」の未記入者は欠損値として除外した(中国3、日本2)。

表8 「祖父母と対立したとき、どう対応するか」

	いつも祖父母の意見に従う	時々祖父母の意見に従う	あまり祖父母の意見に従わない	全く祖父母の意見に従わない	D.K.,N.A	合計 (人)
中国	10.0%	26.1%	39.6%	20.1%	4.3%	100.0% (912)
日本	6.4%	45.0%	30.8%	6.9%	10.8%	100.0% (993)
合計	8.1%	36.0%	35.0%	13.2%	7.7%	100.0% (1905)

表9 「祖父母の子育ては子どもの成長にマイナスになるところがあるか」

	とてもある	ややある	あまりない	まったくない	D.K.,N.A	合計 (人)
中国	4.6%	31.8%	53.8%	6.4%	3.4%	100.0% (912)
日本	1.6%	14.2%	42.1%	35.9%	6.2%	100.0% (993)
合計	3.0%	22.6%	47.7%	21.7%	4.9%	100.0% (1905)

表10 「祖父母と対立したとき、あなたはどうか対応しますか」の回答と「父母の年齢」の関連

			祖父母と対立したとき、あなたはどうか対応しますか					合計 (人)
			いつも祖 父母の意見に 従う	ときどき祖 父母の意見 に従う	あまり祖 父母の意見に 従わない	まったく祖 父母の意見 に従わない	D.K.,N.A	
中国	親 年 齢	20歳代	13.6%	22.0%	33.9%	25.4%	5.1%	100% (59)
		30～34歳	9.8%	25.7%	39.0%	23.8%	1.6%	100% (428)
		35歳～39歳	10.5%	27.1%	43.7%	14.5%	4.2%	100% (332)
		40歳～44歳	6.2%	26.2%	35.4%	18.5%	13.8%	100% (65)
		45歳～49歳	5.3%	36.8%	15.8%	15.8%	26.3%	100% (19)
		50歳以上	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100% (3)
		合計	9.9%	26.3%	39.7%	19.9%	4.2%	100% (906)
日本	親 年 齢	20歳代	8.7%	42.3%	34.6%	8.7%	5.8%	100% (104)
		30～34歳	5.9%	42.5%	35.3%	6.6%	9.7%	100% (320)
		35歳～39歳	5.8%	47.7%	28.0%	7.4%	11.1%	100% (325)
		40歳～44歳	7.0%	49.2%	26.1%	4.5%	13.1%	100% (199)
		45歳～49歳	7.5%	35.0%	32.5%	10.0%	15.0%	100% (40)
		50歳以上	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	100% (3)
		合計	6.5%	45.1%	30.9%	6.9%	10.7%	100% (991)

注)「記入者」の未記入者は欠損値として除外した(中国6、日本2)。

表11 「祖父母と対立したとき、あなたはどうか対応しますか」の回答と「子どもの性別」の関連

			祖父母と対立したとき、あなたはどうか対応しますか					合計 (人)
			いつも祖 父母の意見に 従う	ときどき祖 父母の意見に 従う	あまり祖 父母の意見に 従わない	まったく祖 父母の意見に 従わない	D.K.,N.A	
中国	性 別	男	11.0%	25.2%	41.3%	19.8%	2.8%	100% (465)
		女	9.0%	27.1%	37.5%	20.5%	5.9%	100% (443)
		合計	10.0%	26.1%	39.4%	20.2%	4.3%	100% (908)
日本	性 別	男	6.9%	44.4%	30.9%	6.6%	11.2%	100% (518)
		女	5.9%	45.7%	30.9%	7.2%	10.4%	100% (473)
		合計	6.5%	45.0%	30.9%	6.9%	10.8%	100% (991)

注)「記入者」の未記入者は欠損値として除外した(中国4、日本2)。

表 12 「祖父母と対立したとき、あなたはどうか対応しますか」の回答と「暮らし向き」の関連

			祖父母と対立したとき、あなたはどうか対応しますか					合計（人）
			いつも 祖父母の 意見に 従う	ときどき 祖父母の 意見に 従う	あまり 祖父母の 意見に 従わない	まったく 祖父母の 意見に 従わない	D.K.,N.A	
中国	暮らし向き	とてもゆとりがある	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	100% (4)
		ややゆとりがある	9.5%	24.0%	44.9%	16.6%	4.9%	100% (325)
		あまりゆとりはない	10.5%	27.9%	36.1%	21.5%	4.1%	100% (488)
		まったくゆとりはない	11.0%	24.7%	35.6%	26.0%	2.7%	100% (73)
		D.K.,N.A	4.5%	22.7%	50.0%	18.2%	4.5%	100% (22)
		合計	10.0%	26.1%	39.6%	20.1%	4.3%	100% (912)
日本	暮らし向き	とてもゆとりがある	5.0%	47.5%	27.5%	15.0%	5.0%	100% (40)
		ややゆとりがある	6.8%	43.3%	32.6%	7.4%	9.9%	100% (485)
		あまりゆとりはない	5.6%	47.7%	29.8%	5.8%	11.1%	100% (396)
		まったくゆとりはない	11.1%	39.7%	22.2%	6.3%	20.6%	100% (63)
		D.K.,N.A	0.0%	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%	100% (9)
		合計	6.4%	45.0%	30.8%	6.9%	10.8%	100% (993)

(3) 子育て感情と祖父母のサポートの関連

では、子育て中の保護者は、祖父母にサポートを受けるなかでの子育てをどのように捉えているのだろうか。保護者の子育てに関する意見の実際と子育て感情について、「子育てのことで祖父母と考え方が違うことがあるか」の回答と、「祖父母の子育てが子どものマイナスになること」の関係を見ていきたい（表 13）。

中国と日本の双方において、子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「よくある」と答えた保護者は、祖父母による子育てをマイナスに評価している傾向が見られる。逆に、子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「まったくない」と答えた保護者は、祖父母による子育てをマイナスに捉えていない傾向が見られる。両国を比較すると、中国より日本は祖父母による子育てをマイナスに捉えていないことが分かる。

中国では、子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「よくある」の項目では、祖父母の子育てがマイナスになることが「とてもある」と「ややある」で 75.8%、「あまりない」と「まったくない」が 23.6%である。子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「まったくない」になると、祖父母の子育てがマイナスになることが「とてもある」と「ややある」は 26.4%になっている。子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「よくある」と比較すると、49.4%も低くなっている。また、子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「まったくない」の、祖父母の子育てがマイナスになることが「あまりない」と「まったくない」では 69.8%になっている。これは、子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「よくある」と比較すると、46.2%も高くなっている。

日本では、子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「よくある」の項目では、祖父母の子育

てがマイナスになることが「とてもある」と「ややある」で60.9%、「あまりない」と「まったくない」が32.3%となっている。子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「まったくない」になると、祖父母の子育てがマイナスになることが「とてもある」と「ややある」は、3.9%になっている。子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「よくある」と比較すると、57.0%も低い。また、子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「まったくない」と答えた保護者では、祖父母の子育てがマイナスになることが「あまりない」と「まったくない」と答えた割合は91.1%となっていた。これも、子育てのことで祖父母と考え方が違うことが「よくある」と比較すると、58.9%も高くなっている。

また、 χ^2 検定を用いてこの二つの質問への回答を検討したところ、日中ともに有意な関連が見られた（中国： $\chi^2(16) = 794.394$ $p < .001$ ；日本： $\chi^2(16) = 780.644$ $p < .001$ ）。残差分析の結果、「祖父母と子育ての考え方が違うことがよくある」と答えた場合、「祖父母の子育てが子どもの成長にマイナスになることがとてもある」「ややある」と回答することが有意に多いことが明らかになった。そして、日中ともに「祖父母との子育ての考え方の違いはあまりない」と答えた場合、「子どもの成長にマイナスになることはあまりない」「まったくない」と答えることが有意に多いことも明らかになった。

これらのことから、「祖父母と子育ての考え方に違いがある」ととらえている場合、「祖父母の子育てが子どもの成長にマイナスである」と捉える傾向があることに日中の間で違いはないが、日本では中国に比べ祖父母による子育て支援を肯定的にとらえているため、子どもの成長にマイナスになるととらえる割合も低いことが考えられる。

表13 「子育てのことで祖父母と考え方が違うことがあるか」の回答と「祖父母の子育てが子どものマイナスになること」の関連

			祖父母の子育てが子どものマイナスになること					合計(人)
			とてもある	ややある	あまりない	まったくない	D.K.,N.A	
中国	祖父母との子育ての違い	よくある	14.3%	61.5%	22.4%	1.2%	0.6%	100.0% (161)
		ときどきある	2.2%	30.4%	62.8%	4.3%	0.2%	100.0% (506)
		あまりない	1.2%	16.1%	70.8%	10.6%	1.2%	100.0% (161)
		まったくない	7.5%	18.9%	41.5%	28.3%	3.8%	100.0% (53)
		D.K.,N.A	6.5%	3.2%	3.2%	6.5%	80.6%	100.0% (31)
		合計	4.6%	31.8%	53.8%	6.4%	3.4%	100.0% (912)
日本	祖父母との子育ての違い	よくある	11.5%	49.4%	24.1%	8.0%	6.9%	100.0% (87)
		ときどきある	1.1%	20.2%	51.1%	26.1%	1.6%	100.0% (376)
		あまりない	0.6%	4.8%	50.0%	42.6%	1.9%	100.0% (312)
		まったくない	0.0%	3.9%	26.7%	64.4%	5.0%	100.0% (180)
		D.K.,N.A	0.0%	0.0%	2.6%	5.3%	92.1%	100.0% (38)
		合計	1.6%	14.2%	42.1%	35.9%	6.2%	100.0% (993)

5. 総合的考察

(1) 日常的に子育てを支える祖父母

今回、植村ら（2021）の日中国際比較調査において、中国では約80%、日本では約50%の家庭で祖父母の子育てへの関与があることが明らかになったことを受け、「祖父母による子育てサポート」に焦点を当て、分析・考察を行った。

まず、「祖父母」がどのくらい子育てに関わっているのかについては、中国では双方の祖母が、さらに双方の祖父が日本に比べ高い割合で関わっているという結果がみられた。特に祖父については、父方の祖父の関わりが母方の祖父よりも多かった。一般的に日本では祖父、特に父方の祖父は孫の子育てに最も関わりを持たないといっても過言ではない。今回の結果からも、日本では父方の祖父が最も育児に関わるという回答は5%にも満たなかった。この祖父母の子育てへの関わり方に、日本と中国両国における大きな差がみられる。この背景として、一人っ子世代である親同士が結婚し、そこに生まれた子がまた一人っ子であれば、双方の祖父母にとっては唯一の孫ということになり、当然期待するものも大きく、また定年退職年齢が日本より早いことで、手もかけられる状況であることなどが考えられる。

次に、「子育ての悩みを相談する相手」については、両国ともに一番に相談する相手は「配偶者」、2番目に相談するのは「自分の親」という結果が明らかになった。ここで特筆すべきは、1番の相談相手である「配偶者」の割合が、中国では70%を超えるのに対し、日本では5割に満たなかったことである。今回の調査では回答者がひとり親家庭であるかどうかは特に確認していないが、配偶者の年齢を尋ねる質問項目における無回答の数より推測すると、質問紙調査の対象となった日本の家庭においては、ひとり親家庭の割合が中国よりもかなり多かったと思われる。しかし、そのことを考慮しても、まず「配偶者」に相談するという割合が日本では中国に比べてかなり低く、2番目の相談相手として「自分の親」を頼りにしている割合は日中でほとんど差はなかった。このことから、中国では父母がともに子育てに関与し、祖父母がそれをサポートしていることがうかがえる。一方日本では、配偶者（主に父親）に相談はするものの、中国ほど協力している様子は見られず、母親が自分の親に相談しながら子育てを担っていることが推察される。日中で大きな違いがみられる一方で、「祖父母」の存在が子育ての支えになっていることは日中で共通していると言える。

(2) 経済的に子育てを支える祖父母

さらに、経済的にも中国の祖父母は日本の祖父母より、自分の孫の子育てのための援助をしていることが明らかになった。経済的援助を「とてもしてもらっている」と「ややしてもらっている」を合わせると5割を超えるのに対し、日本では「まったくもらっていない」が5割を超えた。現在、日本では、令和5年（2023年）の税制改正により令和8年（2026年）3月31日まで利用が延長された「教育資金の一括贈与」という制度があり、祖父母から孫への教育資金としての贈与は、1,500万円まで非課税となっている。しかし、この制度を利用して孫に教育資金を贈与する祖父母はごく一部の層であると思われ、日本では祖父母からの経済的な援助はなお当たり前のこととはなっていない。中国では日本に比べ子育てにお金がかかると言われているが、祖父母からの経済的な援助は子育てには欠かせないものとなっているようである。

(3) 祖父母が子育てを手伝う理由と保護者の意識

中国では、祖父母に子育てを手伝ってもらう理由として「出勤時間が厳しい」「夫婦二人とも忙しい」が圧倒的に多く、次いで「祖父母が孫の面倒を見たがる」が多かった。このことから、中国

では、祖父母の希望というより保護者たちが忙しいことが、祖父母が子育てを手伝う最大の理由であり、さらに祖父母は経済的にも援助している現状が明らかになった。一方、日本では「手伝ってもらっていない」との回答も多く、ここでも父親の育児参加が低いことも併せて、日本の母親の育児負担の重さが浮き彫りとなる結果となった。

この祖父母のサポートについて、子育て中の保護者はどう思っているのかについては、興味深い結果がみられた。子育てへのサポートが多く、経済的にも援助を受けている中国の保護者の方が、祖父母と子育てに関しての考え方が違うことが多いとの意識を持ち、意見が対立したときは自分たちの考えを通してることが明らかになった。また、祖父母の子育てへの関与が子どもの成長にマイナスになると思うかについては、日本の保護者たちに比べ「ある」と答える割合が2倍以上高かった。さらに、日本の保護者たちが祖父母と意見が違うことが全くなく、マイナスになることもないと認識している割合が高いのに比べ、中国の保護者たちがそう考えている割合は半分以下となり、祖父母の子育てへのサポートに関し、より厳しい見方をしている傾向が見られた。

6. まとめと今後の課題

以上のことから、中国と日本の祖父母の子育てへのサポートについて大きく2つのことが特徴としてあげられる。

一つには、中国では祖父母は、子育てを日常の世話においても経済的にもサポートしていると思われることである。これには中国の家族に対する考え方も大きく影響しているように思われる。子育ては祖父母も含めた「家族の仕事」と捉えられ、祖父母が子育てをサポートすることは、当たり前のことと考えられているように思われる。現在中国では、3歳未満の乳幼児を預かる施設が極めて少なく、共働きが当たり前の中国では祖父母のサポートなしには子育ては無理ともいえる。それに対し、日本では「イクメン」と呼ばれる父親が増え、「孫育て」という言葉が生まれてはいるが、未だ母親に育児の負担がかかっている現状が明らかとなった。

二つ目として、中国では保護者たちは祖父母に多くのサポートを受けてはいるが、意見の相違も多いとみられることである。そして、子育て中の保護者たちは自分たちの子育てに自分たちなりのやり方を持ち、祖父母に意見されても、自分たちの子育ての方針を曲げていないと思われることである。これらのことから、中国では祖父母と保護者がともに協力して子育てをするが、子育ての主導権は保護者が握っていることが推測される。そのため、祖父母と考え方が違っても、子育てを楽しむことができるのではないだろうか。日本の保護者たちには、祖父母に子育てをサポートしてもらおうことが当たり前との認識は少なく、「遠慮」という言葉も浮かんでくる。いくら親しい立場であっても、サポートしてもらおうのであれば、ある程度の我慢は必要であるという日本人的な考え方の表れでもあるようにも思われる。

最後に、これからの日本における身近な子育て支援について考察する。今回の調査から日本においても中国においても祖父母は身近で精神的に大きな支えとなる存在となっていることがうかがえた。今後、日本の子育てにおいても、この「祖父母」の存在はますます重要となってくるであろう。しかし、今の日本の保護者たちは祖父母と意見が食い違った場合、祖父母の意見に合わせる傾向がある。祖父母が自分の箸で孫におかずを食べさせるのを見て、本来は虫歯予防のために大人の箸を共有させないことにしているにも関わらず、遠慮して言えなかったという話は、筆者が子育て相談で関わる場でも、若い保護者から少なからず聞く話である。今後、日本においても「祖父母」が身近な子育て支援の重要なキーパーソンとなっていくためにも、日本の子育て中の保護者たちが、まず自分の子育てに第一義的に関わるのは自分たちであるという意識を持つことができるような支援や環境が望まれる。また、祖父母に対して、祖父母世代の子育ての常識が現在は非常識とな

っていることもあることを知ることができるような学びの場や啓蒙活動も必要であろう。

初めにも述べたように、今回の研究は保護者から見た祖父母の意識を明らかにした点で有意義であったと考える。しかし、その一方で、実際のところ祖父母はどう思っているのか、という疑問も生じてくる。今後はさらに祖父母の真の意識を調査することも含め検討を加え、これからの我が国において、祖父母が子育てに関わる身近で重要な存在となりうるために必要な支援政策について検討していくことが課題となると考える。

(註)

- (1) 本調査は、上海比較幼児研究会の孫静霞（上海杉達学院）、趙珊珊（上海杉達学院）、黄博（上海杉達学院）、庞佳（上海杉達学院）、張静（上海杉達学院）、徐晓鈍（上海杉達学院）、汪寒（上海杉達学院）、秦政春（同济大学、上海外国语大学）、との共同によるものである。
- (2) 男女共同参画白書 平成 30 年版 内閣府男女共同参画局
- (3) 朝日新聞デジタル 2023 年 11 月 7 日記載 <https://www.asahi.com/articles/ASRC75GKQRC7PPZB007.html> 2023 年 11 月 13 日検索
- (4) 本調査の「同居されている家族」の結果においては、中国は親子のみの世帯が 48.80%、日本は 91.10% となっている。また、中国は「父方の祖父母」が 29.90%、「母方の祖父母」が 16.00%、「両方の祖父母」が 1.90% と親子のみの世帯とほとんど同じ割合で祖父母が同居している。
- (5) 中国における祖父の関わりに関しては、「父方の祖父が関わっている」「母方の祖父が関わっている」「両方の祖父が関わっている」で回答を求めた。そこで、「父方の祖父が関わっている」「母方の祖父が関わっている」のそれぞれに、「両方の祖父が関わっている」と答えた人の回答を加え表記している。そのため、中国における祖父の合計は、「父方の祖父が関わっている」「母方の祖父が関わっている」「両方の祖父が関わっている」に回答した人の合計である。祖母の関わりに対しても、同様の方法で記載している。

(参考文献)

- 植村和彦，今津尚子，大久保淳子，宮地あゆみ，清水陽子，松井尚子，井手裕子（2021）「子育て意識に関する社会文化論的分析—『上海市・北九州市』国際共同研究（1）—」九州産業大学人間科学部発刊「人間科学」3号 24-32
- 秦政春，孫静霞，趙珊珊，黄博，庞佳，張静，徐晓鈍，汪寒（2020）「中国（上海）における子育ての実態」日本子ども支援学会ニューズレター「風の便り」4月臨時増刊号
- 男女共同参画白書 平成 30 年版 内閣府男女共同参画局
- 朝日新聞デジタル 2023 年 11 月 7 日記載 <https://www.asahi.com/articles/ASRC75GKQRC7PPZB007.html> 2023 年 11 月 13 日検索
- 柏まり，佐藤和順（2018）「育児ソーシャル・サポートにおける保育施設の可能性—幼稚園児を持つ親の意識を手がかりとして—」保育学研究 第 56 卷 2 号 99-110
- 張琢，星明（2016）「中国における婚姻と家族の研究」佛教大学社会学部論集 第 63 号 79-100
- 国勢調査「令和 2 年国勢調査 人口等基本集計結果」令和 2 年総務省統計局
- 彭希哲（2022）「中国の人口推移傾向と今後の展望」社会保障研究 Vol.6, No.4 374-388
- 北京大学中国教育財政科学研究所（2018）「中国教育財政」2018 年第 2-3 号（第 152 号）
- 郭莉莉（2014）「都市の少子化と子育て支援ネットワークに関する日中比較調査—札幌・北京調査

を事例に一」現代社会学研究 第27巻 1-18

劉郷英 (2019) 「中国における乳幼児教育・保育改革の過去・現在・未来」保育学研究 第57巻第2号 150-166

北蕾 (2018) 「中国の育児事情」労働調査

TMI 総合法律事務所 (2022) 「中国における育児休暇の導入について」1-5

付記

「はじめに」「本研究の目的」「研究の方法」「総合的考察」「まとめと今後の課題」は松井が執筆を担当し、「結果と考察」は(1)(3)を宮地が、(2)を井手が担当し、それぞれのデータ処理・考察をおこなった。

本論文は、2023年11月5日上海外国語大学国際シンポジウムにおいて発表した原稿に加筆修正を施し論文としての体裁に整えたものである。

“Parents’ awareness of child-rearing support by grandparents — An international comparative survey of China and Japan —”

Naoko Matsui¹ Ayumi Miyadi² Yuko Ide³

¹ University of East Asia

² Kyushu Otani Junior College

³ Seika Women’s Junior College

Abstract:

A questionnaire survey was conducted from September to December 2019, targeting parents with infants in China (Shanghai) and Japan (Kitakyushu). The purpose of this study is to explore the result of questionnaire on childcare environment (family/relative relationship and practical environment), through comparison between Japan and China, examine the actual circumstances of grandparents’ support, and consider the characteristics of parents’ awareness and attitudes toward them.

There are two major characteristics of support for child-rearing by grandparents in China and Japan: Firstly, in China, child-rearing is regarded as a “family job”, and grandparents seem to support child-rearing daily, both practically and financially; Secondly, although Chinese parents receive a lot of support from grandparents, there seems to be a lot of disagreement. While Japanese parents often adjust themselves to grandparents if they have disagreement, it can be inferred that Chinese parents have good control over child-rearing.

keywords:

awareness of child-rearing, grandparents, parents with infants, support, international comparative survey